

音 楽 科 学 習 指 導 案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
 第5校時 13:30~14:15
 対 象 第4学年1組30名
 小学校
 授業者 〇〇 〇〇
 会 場 音楽室

1 題材名 曲の気分を感じ取ろう

2 題材の目標

- (1) 「山の魔王の宮殿にて」の曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付く。
- (2) 「山の魔王の宮殿にて」の速度、強弱、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴く。
- (3) 「山の魔王の宮殿にて」の曲想及びその変化と音楽の構造との関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組み、劇音楽に親しむ。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 「山の魔王の宮殿にて」の曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付いている。	思 「山の魔王の宮殿にて」の速度、強弱、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。	態 「山の魔王の宮殿にて」の曲想及びその変化と音楽の構造との関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 指導観

(1) 題材観

本題材は、小学校学習指導要領（平成29年告示）第2章第6節

音楽〔第3学年及び第4学年〕2内容 B鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。

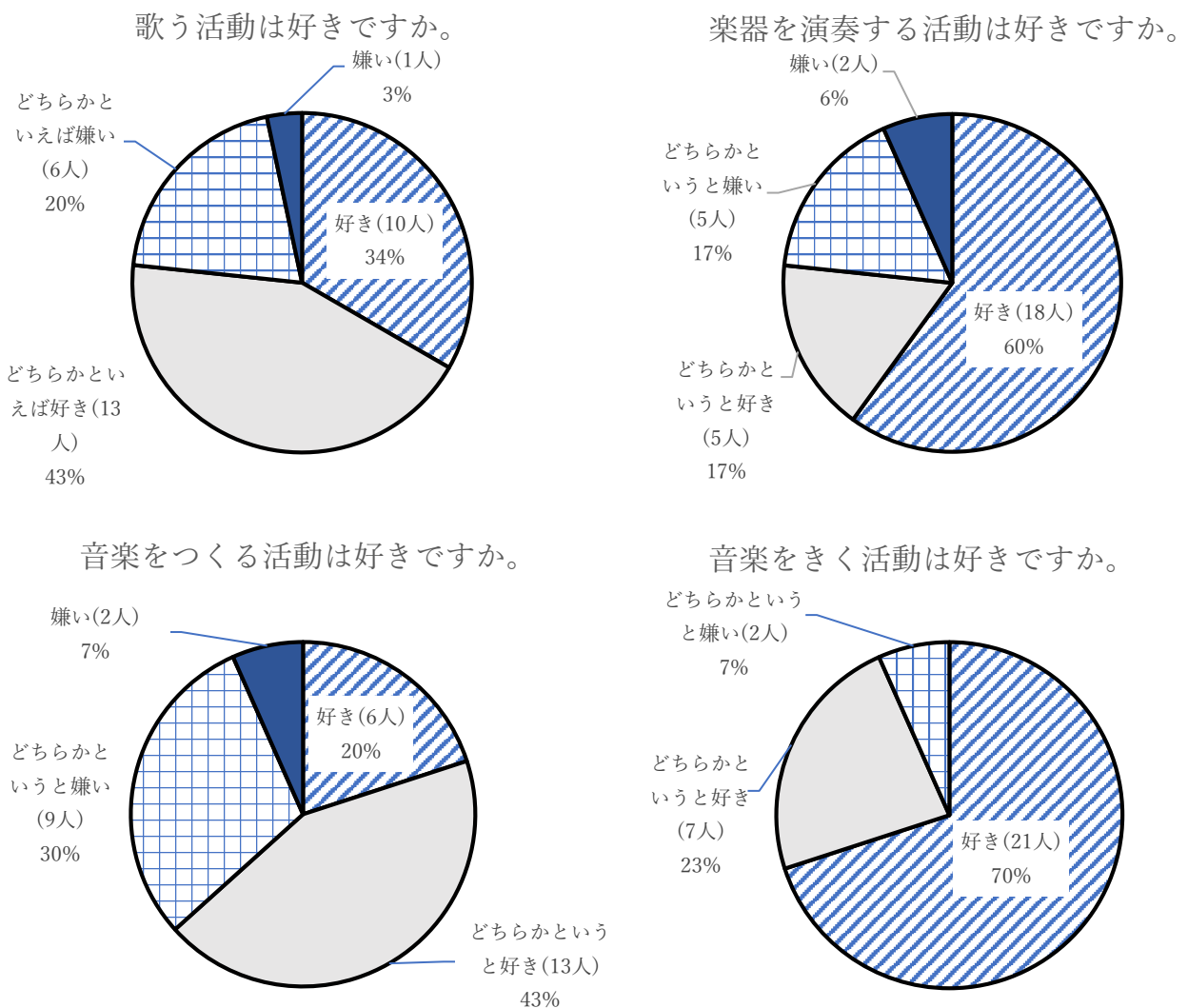
イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くこと。

を受けて設定した。〔共通事項〕(1)アとの関連を図るに当たり、「第3 指導計画の作成と内容の取り扱い 2(8)」に示されている「音楽を形づくっている要素」のうち、主に「ア 速度、強弱」「イ 反復、変化」を扱う。

本題材では、「山の魔王の宮殿にて」(グリーグ作曲)を教材曲として扱う。第1時の冒頭では、旋律の反復を手掛かりとして学習を進めていく。旋律が何回反復されているかをペアで確認する活動や、反復されていく中でも特に曲想が大きく変化する場面を見つけてワークシートに線を引く活動を行い、速度や強弱に変化があることに気付くことができるようにする。その際に、なぜその場所に線を引いたのか、理由を速度や強弱などを根拠として考えられるようにし、曲想と音楽の構造とが関わっていることに気付かせたい。第2時では、曲名と物語のあらすじを知り、第1時で学習した曲想と音楽の構造との関わりを生かしながら、想像豊かに曲全体を味わって聴く学習活動を展開する。その上で、反復、変化から生み出される音楽のよさや面白さを感じ取らせたい。

(2) 児童観

第2学年時より音楽の授業を受けもっており、音楽の学習に前向きに取り組む児童が多い。令和〇年〇月に第4学年1組を対象としたアンケートでは、以下の結果が得られた。その結果、各領域の中でも特に鑑賞の学習活動が好きな児童が多いことが分かった。



第4学年前期「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」の中の「陽気な船長」(市川都志春作曲)では、楽譜を見たりCDの音源を聴いたりしながら、跳躍する音が多くスタッカートが付いている旋

律と、順次進行の音が多くスタッカートが付いていない旋律のそれぞれの特徴に気付くことができた。そして、それらの特徴を生かしてリコーダーを演奏しようとする姿が見られた。また、「白鳥」(サン＝サーンス作曲)の鑑賞の学習では、「チェロの旋律は低い音が多くリズムがゆっくりなので、落ち着いた感じがする。」などと発言し、音楽の特徴と曲想との関わりについて気付いている児童もいたが、それらの関連について考えることが難しい児童もいた。これまでの鑑賞の学習では、曲を初めて聴く際に曲想を表す言葉が書かれた「曲想カード」を見て、どの言葉が当てはまるか考えて選ぶ活動を行うことが多かった。曲想カードから言葉を選択することができ、かつ音楽の構造にも気付くことができる児童がほとんどだが、それらを関連させて考える力が十分に育っているとは言えない。また、学習の始めから曲想についての意見を友達と共有すると、どんどん想像が膨らんでしまい、音楽の構造に注目することが難しい児童もいた。そこで本題材では、学習の冒頭で全員が音そのものをじっくり聴き取る活動から始める。友達と意見を共有しながら、曲想の変化は音楽の構造の変化とも関わっていることを実感できる学習を目指す。

(3) 教材観

ア 鑑賞教材 ペールギュント第1組曲から「山の魔王の宮殿にて」(グリーグ作曲)

劇音楽として作られた中の1曲であり、主人公ペールが山の魔王の宮殿から脱出する場面で用いられる。変奏曲風の形式(前奏→第1～3変奏→コーダ)でできており、前奏ではホルンのFisの長い音が弱く演奏される。その後、それぞれの変奏の中で4小節からなる主題が6回反復される。6回のうち、1・2回目はh-moll(ア)、3・4回目は5度上に転調し(イ)、5・6回目はh-mollに戻る。それが第3変奏まであり合計で18回反復される中で、強弱や速度、音色などが次第に変化し、始めから終わりに向かってひたすら盛り上がっていくのが特徴である。コーダでは、主題がかなり速い速度で演奏され、盛り上がりが最高潮となって終わる。曲全体を通して演奏される主題の反復が特徴となっており、それを手掛かりにしながらその他の音楽の特徴の変化に気付きやすい楽曲である。反復される中でも他の音楽の要素が変化することで、曲想も変化していくということにも気付かせたい。なお、教材観で述べた「主題」は、授業の中では「主な旋律」という言葉で扱うこととする。

【曲の構成】

前奏 → (ア)×2 (イ)×2 (ア)×2 × 3回 → コーダ



音源 小学生の音楽4 指導用CD「山の魔王の宮殿にて」(教育芸術社)

エーテボリ交響楽団 指揮 ネーメ・ヤルヴィ


5 年間指導計画における位置付け

本題材に関連する題材は以下のとおりである。

第4学年 前期	第4学年 後期	第5学年 前期
<p>○せんりつのとくちょうを感じ取ろう（5時間）</p> <p>〔主な教材〕</p> <p>「陽気な船長」（市川都志春作曲）</p> <p>「白鳥」「堂々たるライオンの行進」（サン＝サーンス作曲）</p>	<p>○曲の気分を感じ取ろう（本題材・2時間）</p> <p>〔主な教材〕</p> <p>「山の魔王の宮殿にて」（グリーグ作曲）</p>	<p>○曲想の変化を感じ取ろう（5時間）</p> <p>〔主な教材〕</p> <p>「夢の世界を」（英龍明子作詞／橋本祥路作曲）</p> <p>「キリマンジャロ」（ウォルフ シュタイン・ウォルフガング ヤス作曲／橋本祥路編曲）</p>
<p>曲想と旋律の特徴との関わりに気付く、曲の特徴を生かした表現を工夫したり、曲全体を味わって聴いたりする。</p>	<p>曲想及びその変化と、強弱や速度などによる音楽の構造との関わりについて気付く、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴く。</p>	<p>曲想及びその変化と、リズムや音色などによる音楽の構造との関わりを理解し、曲想の変化にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する。</p>

6 題材の指導計画と評価計画（2時間扱い）

知、技、思、態…全員の学習状況を記録に残す場面

時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
第1時	◎「山の魔王の宮殿にて」の曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付く。			
1時	○「山の魔王の宮殿にて」の主な旋律の反復に気付く。	 知 発言		
（本時）	<ul style="list-style-type: none"> 冒頭から主な旋律が6回繰り返されるまでを聴き、気付いたことを発表する。 図形楽譜を見ながら、曲に合わせて主な旋律を口ずさんだり、自分たちだけで口ずさんだりする。 もう一度冒頭から6回目までを聴き、主な旋律の始めの部分が聴こえたらその都度片手を挙げ、すぐに下ろす。 全体で、主な旋律が何度も反復されていることを確認する。 ○「山の魔王の宮殿にて」の強弱や速度などの変化による曲想の変化に気付く。 <ul style="list-style-type: none"> 冒頭から18回目までを聴き、個人で主な旋律が何回反復されているかを数える。 ペアになり、主な旋律が何回反復されているかを数えながら聴く。 全体で主な旋律が18回反復されていることを確認する。 18回の反復の中で、徐々に変化していくものはなかったか考え、発表する。 個人でワークシートに気付いたことや感じたことをメモしながら聴く。 聴いた後に、ペアで気付いたことや感じたことを共有する。 全体の場で、気付いたことや感じたことを数名が発表する。 18回の反復の中で、曲想が一番大きく変化するところはどこか考えながら聴き、ワークシートの点線上に線を引く。 			

	<ul style="list-style-type: none"> ・聴いた後にペアで意見を共有し、なぜそこに線を引いたのか話し合う。 ・全体で一番大きく変化している部分について意見を交換する。 ・7回目から18回目までを聴き、大きく変化している部分を確認する。 <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートにこの曲を学習して気付いたことを書いたり、気付いたことを基に感じたことを書いたりする。 ・本時を振り返るとともに、次時の学習の見通しをもつ。 	・記述		
第2時	<p>◎「山の魔王の宮殿にて」の速度、強弱、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲全体を味わって聴く。</p> <p>○音楽の構造を根拠にしながら曲の様子を想像し、曲全体を味わいながら聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冒頭から18回目の終わりまでを聴き、前時に学習したことを振り返る。 ・曲名と「パールギュント」の物語のあらすじを知る。 ・パールの様子を想像しながら冒頭から最後までを聴く。 ・最後まで聴いて想像したことやなぜそう思ったかを発表する。 ・もう一度聴いて、気付いたことを確認する。 ・音楽の構造を根拠にしながら曲の様子を想像し、ワークシートに記入する。 ・ペアで意見を共有する。 ・全体で意見を共有する。 <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時を振り返るとともに、冒頭から最後まで曲全体を味わいながら聴く。 			<p>☒ 発言・記述</p> <p>☒ 観察・記述</p>

7 指導に当たって

◆第2期班テーマ ねらいを明確にした授業づくり～発問の工夫～

ねらいを明確にした授業を作るためには、題材を通して児童にどのような力を身に付けさせたいかを教師がしっかりと意識しておくことが大切である。また、教師のねらいを達成するために、児童に分かりやすい言葉でめあてを提示し、ねらいに迫る発問を工夫することが必要である。本題材を指導するに当たり、配慮した点は次のとおりである。

(1) 「指導技術（授業展開）」の視点から

ア 旋律の反復に注目させる手だて

本題材では、最初に曲名や物語のあらすじを知らせずに、児童が音そのものに着目して聴き取ることができるようにする。第1時の冒頭では、反復する旋律に注目することができるように、常時大型モニターに旋律の音高を示した図形楽譜を掲示するとともに、全員で旋律を口ずさんで覚える活動を行う。また、その旋律の始めの部分が聴こえたら適宜手を挙げる活動を取り入れることで、その後の18回の反復を数える活動に取り組みやすくさせる。

イ 変化に注目させる手だて

18回の旋律の反復の中でも、特に変化を感じ取りやすい部分に焦点を当てる。ワークシートの表を用いて、大きく変化したと思った場所に線を引く活動を行う。なぜその場所で線を引いたのか、その理由を速度や強弱などを根拠として考えられるようにし、曲想と音楽の構造とが関わっていることに気付かせたい。

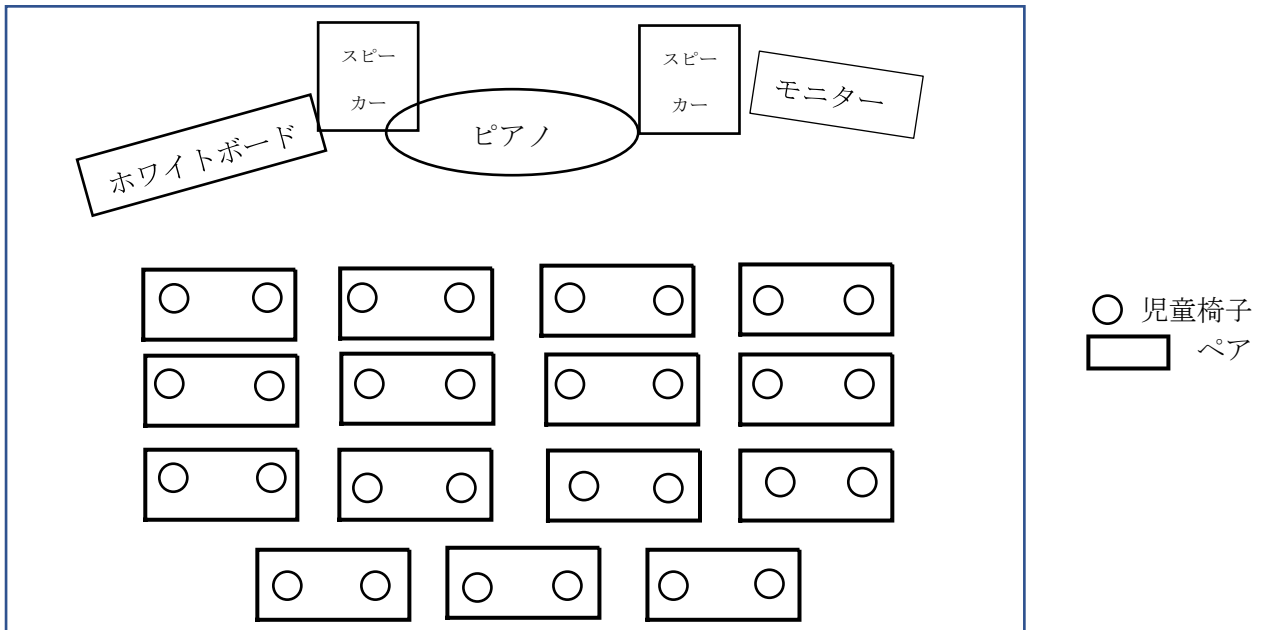
(2) 「発問の工夫」の視点から

本時のねらいを達成するために、児童の気づきを促す発問を設定する。第1時の導入では、教師から旋律の反復について教えることなく、敢えて広めの発問を設定し、児童自らの旋律の反復への気づきを基に学習を進めていく。旋律の反復についての発言がなかった場合は、どんな旋律が聴こえたか、その旋律が何度も繰り返されていたか補助発問をする。全体で旋律の反復についての気づきを共有した後に、変化に注目して学習していく。そのために、旋律が18回繰り返している中で特に12回目と13回目に焦点を当てたい。曲の中で一番大きく変化するところはどこか、なぜそう思うのか根拠を考えさせる発問をすることによって、速度や強弱、音色などの変化にも気づきやすくする。

(3) 「主体的・対話的で深い学び」の視点から

友達と一緒に確認しながら反復する旋律の回数を数えたり、ペアで気付いたことや感じたことを共有したりする活動を通して、多様な考えに触れ、学びを深めることができるようにする。一人では発表することができない児童も、友達と意見を共有して自分の考えに自信を付けたり友達の意見に納得したりすることで、より主体的に学習に取り組むことができるようにする。本時では主にペアでの活動を取り入れるが、座席は児童同士の間関係や鑑賞の能力を考慮して決定する。

〈教室環境の見取り図〉



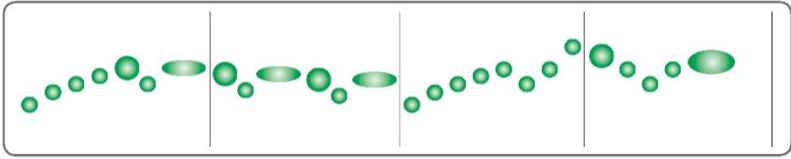
8 本時（2時間中の第1時）

(1) 本時の目標

「山の魔王の宮殿にて」の曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付く。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 5分	○「山の魔王の宮殿にて」の旋律の反復に気付く。 ・冒頭から主な旋律が6回反復されるころまでを聴く。	・音楽を聴いた後に気付いたことを発表してもらおうと伝えておく。	

	<p>【発問】 ここまでの部分を聴いて、気付いたことはありますか。</p> <p>【補助発問】 どんな旋律が出てきましたか。</p> <p>・ 図形楽譜を見ながら曲に合わせて主な旋律を口ずさんだり、自分たちだけで口ずさんだりする。</p> <p>㊦ 主なせんりつ</p>  <p>・ もう一度冒頭から6回目までを聴き、主な旋律の始めの部分が聴こえたらその都度挙手し、すぐに下ろす。</p> <p>・ 全体で、主な旋律が何度も反復されていることを確認する。</p>	<p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音が弱い。 ・ 音が低い。 ・ 速度が遅い。 ・ 何度も同じ旋律が出てきた。 <p>・ 児童の発言を板書しておく。</p> <p>・ 大型モニターに図形楽譜を映し、旋律を指でなぞるようにする。</p>	
<p>展 開 30 分</p>	<p>○ 「山の魔王の宮殿にて」の強弱や速度などの変化による曲想の変化に気付く。</p> <p>・ 本時の目標を把握する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">くり返されるせんりつに気を付けてきこう。</p> <p>・ 冒頭から18回目までを聴き、個人で主な旋律が何回反復されているのかを数える。</p> <p>・ 何回反復されていたか、数名が発表する。</p> <p>・ ペアになり、主な旋律が何回反復されているかを数えながら聴く。</p> <p>・ 全体で主な旋律が18回反復されていたことを確認する。</p> <p>・ 18回の反復の中で、徐々に変化していくものはなかったか考え、発表する。</p>	<p>・ 挙手していない児童がいた場合は、その児童の近くで一緒に手を挙げたり下ろしたりする。</p> <p>・ 始めの数回は、音楽に合わせて大型モニターの図形楽譜をなぞり、児童が回数を数えやすくする。</p> <p>・ ペアで向かい合って、一緒に回数を数えるように促す。</p> <p>・ ホワイトボードに回数表を貼る。</p> <p>・ 冒頭部分を聴いたときに気付いたことと比較するように促す。</p>	

<p>【発問】 18 回繰り返しがありませんでしたが、どのように繰り返していませんか。</p>	<p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は弱く始まったけれど、だんだんと音が強くなって盛り上がっていった。 ・どんどん楽器が増えていった。 ・だんだんと速度が速くなって、何かに追い掛けられているような感じがした。 	<p>知 「山の魔王の宮殿にて」の曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付いている。 (発言、記述)</p>
<p>【補助発問】 強弱、速度、音色は変化していませんでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人でワークシートに気付いたことや感じたことをメモしながら聴く。 ・聴いた後に、ペアで気付いたことや感じたことを共有する。 ・全体の場で、気付いたことや感じたことを数名が発表する。 ・18 回の反復の中で、曲想が一番大きく変化するところはどこか考えながら聴き、ワークシートの点線上に線を引く。 ・聴いた後にペアで意見を共有し、なぜそこに線を引いたのか話し合う。 ・全体で意見を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布する。 ・椅子の方向を変え前を向き、椅子を机として使うように言葉を掛ける。 ・強弱、速度、音色に注意して聴くように促す。 ・児童の発言をホワイトボードの表に板書する。 ・聴きながらメモを書き加えてもいいことを伝える。 ・線を引いた部分と、その部分だと思った理由も考えられるように伝える。 	
<p>【発問】 18 回の繰り返しの途中で、一番大きく変化するところはどこでしょう。</p>	<p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12 回目と 13 回目の間。 	
<p>【補助発問】 なぜそう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7 回目から 18 回目までを聴き、大きく変化している部分を確認する。 	<p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・13 回目からシンバルの音が聴こえたから。 ・急に速くなったから。 ・12 回目からバイオリンの音が聴こえて、13 回目に向かって盛り上げていたから。 	
<p>まとめ 10</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の振り返りをする。 ・ワークシートにこの曲を学習して気付いたことを書いたり、気付いたことを 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴き取ったことと感じ取ったことを関わらせることができ

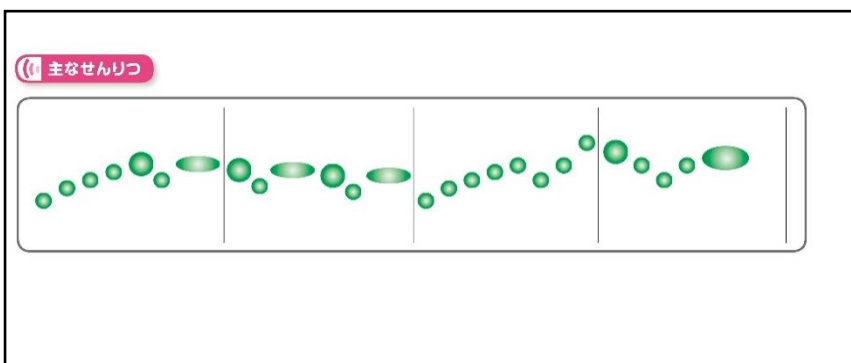
分	基に感じたことを書いたりする。 ・本時を振り返るとともに、次時の学習の見通しをもつ。	るように、言葉を掛ける。 ・次回は続きの部分を聴くことを知らせる。	
---	---	--------------------------------------	--

(3) 板書計画

ホワイトボード

くり返されるせんりつに気を付けてきこう。										【気付いたこと】 ・音が弱い。 ・音が低い。 ・速度がおそい。 ・何度も同じせんりつが出てきた。									
回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
気付いたこと																			
感じたこと																			

モニター



(4) 授業観察の視点

- ア 児童が反復に着目できるよう、旋律が反復する回数を数えたり、手を挙げたりする活動は効果的であったか。
- イ 児童が変化に着目できるよう、ワークシートに線を引くとともに、その部分に線を引いた理由を伝え合う活動は効果的であったか。
- ウ 目標を達成するための分かりやすい発問はできていたか。
- エ ペアでの活動は、学びを深めるために有効であったか。